

(雨ニモマケズ)

宮沢 賢治

作者不明

雨ニモマケズ  
風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク

決シテイカラズ

イツモシズカニワラツテイル

一日ニ玄米四合ト

味噌ト少しノ野菜ヲ

タベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウ

ニ入レズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ陰ノ

小サナ萱ブキノ小屋ニイテ

東ニ病氣ノコドモアレバ

行ッテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ッテソノ稲ノ束ヲ負イ

南ニ死ニソウナ人アレバ

行ッテコワガラナクテモイイトイイ

北ニケンカヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイイ

ヒデリノトキハナミダヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ  
ソウイウモノニ  
ワタシハナリタイ

雨にもあてず  
風にもあてず

雪にも夏の暑さにもあてず

ぶよぶよの体にたくさん着こみ

意欲もなく

体力もなく

いつもぶつぶつ不満をいつている

毎日塾に追われ

テレビに吸いついて遊ばず

朝からあくびをし

集会があれば貧血を起こし

あらゆることを

自分のためだけに

考えてかえりみず

作業はぐずぐず

そしてすぐ忘れ  
りっぱな家の  
自分の部屋に閉じこもっていて

東に病人あれば

医者が悪いといい

西につかれた母あれば

養老院に行けといい

南に死にそうな人あれば

寿命だといひ

北にけんかやそしょうがあれば

ながめてかかわらず

ひでりのときは冷房をつけ

みんなに勉強勉強といわれ

叱られもせず

こわいものもしらず

こんな現代っ子に  
だれがした

宮沢 賢治(一八九六〜一九三三)

大正から昭和にかけての詩人・童話作家。

岩手県に生まれ、農業をしながら作品を書いた。

「(雨ニモマケズ)」は、一九三一年九月、東京で病に倒れて帰郷した  
その年の十一月、手帳にかきとどめてあった。

(雨ニモマケズ)

宮沢

賢治

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク

決シテイカラズ

イツモシズカニワラツテイル

一日ニ玄米四合ト

味噌ト少シノ野菜ヲ

タベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジヨウ

ニ入レズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ陰ノ

小サナ萱ブキノ小屋ニイテ

東ニ病氣ノコドモアレバ

行ッテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ッテソノ稻ノ束ヲ負イ

南ニ死ニソウナ人アレバ

行ッテコワガラナクテモイイトイ

北ニケンカヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイ

ヒテリノトキハナミダヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

ソウイウモノニ　ワタシハナリタイ

宮沢 賢治（一八九六～一九三三）

六正から昭和にかけての詩人・童話作家。

岩手県に生まれ、農業をしながら作品を書いた。

「（雨ニモナケズ）」は、一九三一年九月、東京で病に倒れて帰郷したその年の十一月、手帳にかきとどめてあった。

（雨ニモマケズ）

宮沢賢治

※○はカタカナ・●は漢字が入ります

雨<sup>あめ</sup> 雨  
○   
○   
○   
○   
○

風<sup>かぜ</sup> 風  
○   
○   
○   
○   
○

雪<sup>ゆき</sup> 雪  
○   
○   
夏<sup>なつ</sup> 夏  
○ ●   
○   
○   
○   
○   
○

丈<sup>じょう</sup> 丈  
夫<sup>ぶ</sup> 夫  
○   
○   
○   
○   
○   
○   
○

窓<sup>まど</sup> 窓  
○   
○   
○

決<sup>けつ</sup> 決  
○   
○   
○   
○   
○

イツモ  
○   
○   
○   
○   
○   
○   
○   
○   
○   
○   
○

一<sup>いち</sup> 一  
日<sup>にち</sup> 日  
○   
●   
●   
●   
●   
○

小ち 小  
サ ナ  
●  
○  
○  
○  
●  
●  
○  
○  
○

野の 野  
原はら 原  
○  
●  
○  
●  
●  
○

ソ シ  
テ テ  
○  
○  
○  
○

ヨ ク  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

ニ 入  
入  
○  
○  
○

ジ ブ  
ン ン  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

ア ア  
○  
○  
○  
○  
○

○  
○

味み 味  
噌そ 噌  
○  
●  
○  
○  
●  
●  
○



ソウ  
○  
○  
○  
○  
○


ワタシ  
○  
○  
○  
○  
○


クニモ  
○  
○  
○  
○


ホ  
○  
○  
○  
○  
○


ミンナニ  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○


サムサ  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○


(雨ニモマケズ)

宮沢

賢治

雨あめニモマケズ

風かぜニモマケズ

雪ゆきニモ夏なつノ暑あつサニモマケヌ

丈夫じょうぶナカラダヲモチ

慾よくハナク

決けつシテイカラズ

イツモシズカニワラツテイル

一日いちにちニ玄米げんまい四合よんごうト

味噌みそト少すこシノ野菜やさいヲ

タベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジヨウ

ニ人いレズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原のほらノ松まつノ林はやしノ陰かげノ

小サナ萱かやブキノ小屋こやニイテ

東ひがしニ病びょう気きノコドモアレバ

行いツテ看かん病びょうシテヤリ



西<sup>にし</sup> ニツカレタ母<sup>はは</sup>アレバ

行<sup>い</sup>ツ テソノ稲<sup>いね</sup>ノ東<sup>たば</sup>ヲ負<sup>お</sup>イ

南<sup>みなみ</sup> ニ死<sup>し</sup>ニソウナ人<sup>ひと</sup>アレバ

行<sup>い</sup>ツ テコワガラナクテモイイトイイ

北<sup>きた</sup> ニケンカヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイイ

ヒデリノトキハナミダヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

ソウイウヒトニワタシハナリタイ

(雨にもまけず)

宮沢

賢治

雨にもまけず

風にもまけず

雪にも夏の暑さにもまけぬ

丈夫なからだをもち

慾はなく

決していからず

いつもしずかにわらっている

一日に玄米四合と

味噌と少しの野菜を

たべ

あらゆることを

じぶんをかんじよう

に入れずに

よくみききしわかり

そしてわすれず

野原の松の林の陰の

小さな萱ぶきの小屋にいて

東に病気のこどもあれば

行って看病してやり

西にしにつかれた母はは あれば

行いってその稲いねの東たはを負おい

南みなみに死しにそうな人ひと あれば

行いってこわがらなくてもいいといい

北きたにけんかやそしようがあれば

つまらないからやめろといい

ひでりのときはなみだをながし

さむさのなつはおろおろあるき

みんなにデクノボーとよばれ

ほめられもせず

くにもされず

そういうひとにわたしはなりたい